

学校 教育 目標	「みんながかがやくイマミっ子」 ～明るく かしこく たくましく～				
	○ 進んで学ぶ子	【知】	自ら課題を見つけ、粘り強く解決していこうとする子を育てます。		
	○ 自他を大切にする子	【徳】	自分も仲間も大切に、自ら考え判断し、行動する子を育てます。		
	○ 心身ともに健康な子	【体】	健康に関心をもち、心身ともにたくましい子を育てます。		
	○ まちと共に生きる子	【公】	地域や身近な人とのかかわりを大切に、共に生きていく子を育てます。		
○ 未来を切り拓いていく子	【開】	多様な価値観を認め合い、人とのコミュニケーションを大切にしながら、よりよい未来を目指す子を育てます。			
学校 概要	創立 43 周年	学校長 佐々木一高	副校長 玉置智子	2 学期制	一般学級： 11 個別支援学級： 4
	児童生徒数： 312 人	主な関係校： 今宿中学校 今宿小学校 都岡小学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	今宿中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p style="text-align: center;">&lt;主体性・積極性&gt; &lt;問題発見・解決能力&gt; &lt;協働・コミュニケーション力&gt;</p>	<p>今宿中学校 今宿小学校 今宿南小学校</p>	<p>自ら学び 人や社会とつながり よりよい未来をともに創る人</p> <p>・年間を通して、「テーマである児童生徒が主体的に学習できる授業づくり」を推進する。「主体的、探究的で深い学びの実現」にむけブロック内で授業研究、協議会を行う。</p> <p>・安心した学校生活が送れるよう「子ども会議」等を活用し情報の共有、取組を行う。</p>

中期 取組 目標	<p>○子ども一人ひとりの思いを大切に、安心して学べる環境を整えながら、主体的で対話的な学びを充実させます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年目は安心して自分の思い考えを発信し、学習課題を解決する楽しさを実感できる授業作りを推進します。</li> <li>・2年目は子どもの表現力を高めながら、自分も仲間も大切にしよう環境を整え、伝え合う力を育てます。</li> <li>・3年目は自ら進んで課題を見つけ粘り強く取組み、考えを伝え合うことで自分の考えを深めることができるようにします。</li> </ul> <p>○地域や身近な人とのかかわりを大切に、まちを大事にしていこうとする心を育てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年間を通して自他ともに認め合うコミュニケーション力を高めながら、楽しく学校生活を過ごせるようにします。</li> </ul>
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	確かな学力	①低学年から、積極的に端末に触れる環境を整える。併せて、情報リテラシーの指導も進めていく。 ②児童が考えを表現したり、対話したりする力をさらに伸ばすため、子どもの姿で語る授業づくりの研究を推進する。 ③カリキュラムや宿題、朝学習を見つめ直し、個の学びの足あとを見える化する。
担当	A①自律	
徳	豊かな心	①縦割り活動を通して、異学年の関わりから児童の主体性や思いやりの心を育む。 ②道徳研修は、内容や回数を改善し充実を図る。 ③ニコニコタイム（スケッチタイム）の充実に向け、教育的効果を検証しながら他者理解に向けた豊かな心の伸長につなげる。
担当	A②多様性	
体	健やかな体	①子どもの思いを軸に、持続可能な委員会を創造する。 ②キラキラタイム（休み時間）を通して、委員会児童の主体性を大切に取組を創造する。 ③運動会において、児童の思いを生かせる係活動を展開し、運動への主体的な関わりにつなげる。
担当	B③健康	
公開	まちと共に	①学校だよりを用いて、行事や学習など学校の様子を効果的に地域に発信する。 ②地域学校協働活動事業を整理・拡大し、保護者や地域のサポートを受けやすいシステムを構築する。 ③子どもの地域行事に参加を促せるよう、学校だよりに行事の記載をしたり、家庭への「すぐーる」配信をしたりして、地域との懸け橋となる。
担当	地域	
いじめへの対応		①いじめの未然防止や早期発見、迅速な対応など、組織的な取組を継続して行う。 ②今中ブロック横浜子ども会議での話し合いを、校内への具体的な実践につなげる。 ③アンケートや日頃の小さな変化に気付けるよう、定期的な傾聴研修やチェックを行い、全職員で協働した取組を怠らない体制をつくる。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)		①当事者意識を大切に、主体的な取組を創造できるよう組織を改編する。(意欲・効力感向上) ②教職員が孤立しないよう、教科担任制を定着させ、協働体制を確立する。(安心感、業務分担) ③業務対応電話時間帯を変更し、業務に集中する時間を確保する。
担当	A③教育DX	
特別支援教育		①特別支援委員会を定期開催し、ブリーフセラピーを行いながら、「誰一人取り残さない学び」に向けた組織対応を進める。 ②個別支援学級と一般級における共通理解を進めるため、教科担任制や専科授業を取り入れながら授業を見合える体制を整え実践する。 ③「安心して過ごせる場」づくりに向けた校内の環境整備を進める。
担当	B②特別支援	